

カリタス女子中学校 第四回入学試験

二〇二三年二月三日 実施

国語問題

(五〇分)

*答えはすべて解答用紙に記入すること。

*字数の指定がある場合は、句読点や記号をふくむこととします。

一 次の①～③の——部の漢字をひらがなに改め、④～⑦の——部のひらがなを漢字に改めなさい。ただし、④～⑦で送りがなを必要とするものについては、送りがなも書くこと。

① 費用を工面する。

② 全権を委ねる。

③ 暴君による圧政。

④ 自らをりつする。

⑤ きょうど料理。

⑥ アイデアをねる。

⑦ 舞台のまくが上がる。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついている語は、文章のあとに語注があります。

みなさんはなにかに忠誠心を持っていますか？ こういわれるとピンときにくいかもしれませんが、1、プロスポーツのチームや選手、俳優やミュージシャンのファンであることも忠誠心の一形態といえるでしょう。

自分の学校に忠実なら愛校心、会社に対してなら、愛社精神を持つと言えます。

さらに、最近ではある企業の商品やサービスを定期的に購入することで「ロイヤルティ・ポイント」を集めることが一般的ですが、その「ロイヤルティ」はまさに「忠誠心」の英訳です。つまり、その企業の商品やサービスを定期的に購入することは、その企業に忠実だということを意味します。

こんな具合に、私たちは、いろいろな対象に忠誠心を持つのが普通です。

ここで考えたいのは、忠誠心を持つことは、道徳的に正しいのか、という問題です。

愛校心や愛社精神を持つことなら、なんとなく望ましいことのように思うかもしれませんが、2、スポーツ選手や俳優のファンであることは、ただ単に好みの問題であって、道徳的に正しいかどうかとは関係がないでしょう。

また、特定の企業の商品を定期的に購入することも、道徳的意味を持つとは言えないでしょう。自分が乗るクルマをトヨタにしようと、ホンダにしようと、好みの問題にすぎません。

しかし、たとえば、武士の時代であれば、侍は主君に忠誠を尽くすことが求められていました。江戸時代では、「主君のために」「お家のために」奉公することこそが武士の生きる道でした。

この場合、忠誠心は道徳的にプラスの符号がつけられるものであったといえそうです。

こうしてみると、忠誠心を持つことは、道徳的に望ましい場合と、道徳的であるかどうかと無関係である場合があるといえます。

このように評価が分かれるのはなぜでしょうか。

それは、忠誠心の道徳的意義は、忠誠心を抱く対象によって左右されるからです。

そのことがはっきりするのが、忠誠心の対象が道徳的に望ましくないものである場合です。

たとえば、ナチスに忠誠を誓い、ユダヤ人虐殺に積極的に協力したドイツ人の場合はどうでしょうか。あるいは、「組」に忠実な暴力

団員の場合はどうでしょう。

3、それほど極端な例でなくとも、たとえば、自分が勤めている会社が、環境汚染物質を垂れ流しにしていることを知りながら、会社員に忠誠心を抱くあまり、その事実をひた隠しに隠す会社員はどうでしょうか。

これらの例から明らかなように、忠誠心の道徳的意義は、忠誠心の対象が道徳的に正しいかどうか大きく依存します。こうしてみれば、忠誠心を持つことは、必ずしも無条件に正しいこととはいえない、ということとは明らかです。

A この問題を真正面から取り上げた小説に、日系イギリス人のノーベル文学賞作家、カズオ・イシグロの『日の名残り』があります。

原作の素晴らしさもさることながら、アンソニー・ホプキンスとエマ・トンプソンという現代イギリスを代表する名優が出演して映画化された作品も格調高い名作として知られています。

その主人公であるステイブンスは、ダーリントン・ホールという屋敷で執事を務めている人物です。ステイブンスは、執事として有能だけでなく、その屋敷の所有者であるダーリントン卿に極めて忠実でした。

さて、このダーリントン卿は、温和な紳士なのですが政治的にナイーブで、ナチスと協調できるという考えの持ち主でした。その上、ナチスに同調するあまり、屋敷で雇っていたユダヤ人の家事手伝いを解雇するよう、ステイブンスに命じます。

家事手伝い頭を務めていたミス・ケントンが反対したにもかかわらず、ステイブンスは忠実に主人の命令に従い、家事手伝いを解雇してしまいます。その際、ステイブンスは、自分の主人には自分の知識や判断の及ばないことが理解できるのだ、という絶対的な信頼感を抱いていました。

第二次世界大戦終了後、ダーリントン・ホールは、ダーリントン卿の死後、アメリカ人のファラディ氏の所有となります。

ステイブンスは、引き続き執事としてファラディ氏に仕えます。屋敷の外で出会う人々から、「ダーリントン・ホールの執事なら、ナチスに協力したことで汚名高きダーリントン卿を知らないか」と問われると、ステイブンスは「自分の主人はアメリカ人のファラディ氏だ」と答え、ダーリントン卿に仕えた過去を隠そうとします。

B この時点で、ステイブンスは、かつての主人であるダーリントン卿に対してようやく否定的な評価を下すようになったのです。

この物語は、ステイブンスの忠誠心があまりにも強かったために、忠誠の対象であるダーリントン卿に対して道徳的な評価ができな

かったこと、そして、その事実を戦後になって苦い記憶として回想する様を描いています。

ここで注目すべき点は、忠誠心には判断を曇らせる嫌いがあるということです。

つまり、自分が忠誠心を抱く対象が優れていると思ひ込みがちになってしまふということです。

なぜそうなってしまったか、と言えば、ステイブンスの場合、自分がひたすら優れた執事になろうと努力した結果でした。

執事として、主人の言うことを忠実に聞き、主人の期待以上の働きをしようとする努力は、「執事」という役割を果たすという点においては、称賛に値するでしょう。

しかし、人は人生を生きる上で、そのような職業的な役割を果たす存在としてのみ生きるわけではありません。

特に道徳が問題となる場合は、職業や社会的立場、国籍などの違いを超えた人間共通の問題として判断することが必要となります。

ですが、ダーリントン卿に仕えたステイブンスは、^C 自分自身を「執事」という役割を果たす人間としてしか把握しなかった結果、道徳的であるべき人間という立場に立つて、物事を判断することを忘れてしまつていた、と言えます。

このように、忠誠心は過剰になると、忠誠心を抱く対象について良し悪しの判断を避けてしまい、ただひたすら追従してしまう危険があるわけです。

ところで、忠誠心を抱く対象は人とは限りません。

先ほど、ロイヤルティ・ポイントの例を挙げましたが、この場合、文字通り、その特定の企業の商品やサービスに忠実なわけです。

そのことは、言い換えれば、その他の企業が提供する商品やサービスの良し悪しをはじめから考慮しないことを意味します。

しかし、その結果として、自分にとって最も望ましい商品やサービスを手に入れることができないかもしれないわけで、忠誠心を発揮することは、必ずしも合理的とは言えないことになります。

ですが、その他の選択肢を考慮に入れない、ということには、ある種の「メリット」もあります。それは、他の企業の商品やサービスとの比較検討をしないので、あれこれ考える面倒を省くことができる点です。つまりは思考を停止できるのです。

しかしながら、すでに指摘しましたように、忠誠心を抱くことが正しいかどうか、その対象の良し悪しに左右されるのであれば、本来、その対象を評価することが必要はらずです。

評価の相手とは、個人とは限りません。学校や企業のような組織かもしれないし、政府や自治体かもしれません。いずれにせよ、忠誠心を抱く際に、相手が自分にとって重要な価値や信念に合致するかどうかを判断することが必要です。そして、その判断は自分の頭でしなければなりません。

それとは逆に、忠誠心が強いとどれほど愚かになるか、を活写した小説にジョージ・オーウェル作の『動物農場』があります。

ある農園の動物たちが、アルコール依存症で怠け者の農場主を追放し、理想的な共和国を築こうとします。ところが、リーダーを務めるナポレオンという名前の豚が独裁者になり、専制政治をはじめます。

動物農場の意思決定機関である最高会議はすべて豚が牛耳ることにになり、この豚たちに愚直なまでに忠実だったのがボクサーという名の年老いた馬でした。

ボクサーは、何かといえば、「ナポレオンは常に正しい」というスローガンを口にし、豚たちのために怪我をしても必死に耐えて働きま

す。豚たちのために働けば働くほど、他の動物たちを奴隷状態に貶めて行くのですが、そんなことには、ボクサーは全く気付きません。過剰労働が祟って動けなくなったボクサーは、食肉処理場へと売られてゆき、その代金でナポレオンたちはウイスキーを購入するとい

う。皮肉な結末となります。

忠誠心があまりに強いために思考を停止してしまうなら、ボクサーのような悲惨な運命を覚悟しなければならいかもしれないのです。このように過剰な忠誠心には危険が伴いますが、ここでもうひとつ注意すべきことは、人や組織に対してだけでなく、社会通念や常識などについても忠誠心を抱くことができる点です。

つまり、なんらかの社会通念や常識に従うだけでは自分で判断していることにはならないことにも注意する必要があります。いわゆる常識や社会通念のたぐいもすべて、思考を停止し、行動を自動化するためのものです。

日本社会で言えば、たとえば「目上の人はいらい」ということになっています。相手がどれほどつまらない人間でも、年齢が上だとい

うだけの理由で、相手を不必要なまでに尊重し、いうことを聞かなければならない。逆に、年下の人に対して横柄な態度をとる年長者も少なくありません。

ある意味で、このような人間関係の捉え方というのは、相手の人格や能力についての評価をせずに、相手への態度を決定するという点で、思考を停止し、判断を自動化するので実に愚かしいことと言ってもよいでしょう。

〔語注〕

※執事……身分の高い人の家などで事務などの用事をする人。

※ナイーブ……ここでの意味は、「判断が未熟である」という意味。

※嫌いがある……そういう傾向がある。

※専制政治……国家のすべての権力を支配者がにぎり、国民の意思を無視して行われる独断的な政治。

問一

1 3 にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えな

さい。ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

ア しかし イ また ウ たとえば エ だから

問二

A この問題 とはどのようなことですか。簡潔に説明しなさい。

問三

B スティーブンスは、かつての主人であるダーリントン卿に対してようやく否定的な評価を下すようになった。について、次の

(1) (2) に答えなさい。

(1) 「否定的」の対義語を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 限定的 イ 合理的 ウ 肯定的 エ 積極的 オ 懐疑的

(2) 以前「スティーブンス」は、(1)で答えた語のように、かつての主人「ダーリントン卿」を前向きに受けとめていました。どのような人物であると受けとめていたでしょうか。「人物」に続く形で、二十五字以内で本文中からぬき出して答えなさい。

問四

C 自分自身を「執事」という役割を果たす人間としてしか把握しなかった結果、道徳的であるべき人間という立場に立って、物事を判断することを忘れてしまっていた。とありますが、もし仮に、「スティーブンス」が「道徳的であるべき人間という立場に立っ

て物事を判断」していたならば、「ダーリントン卿」の命令に対して彼はどのように行動したと思われますか。考えて書きなさい。

問五 愛子さんと恵さん^{めぐみ}は、皮肉な結末 ^D についての理解を深めようしました。そこで、国語辞典で「皮肉」の意味を調べ、ふだん

自分たちのまわりでこの言葉がどういうふうに使われているかをふり返った上で、本文中での意味を話し合いました。これについて後の(1)(2)(3)の問いに答えなさい。

●国語辞典にある「皮肉」の意味

(a) 遠まわしに、いじわるく弱点などを突くことば。

(b) 予想や期待に反して意地悪をされたような結果になること。

●愛子さんと恵さんの会話

愛子…「皮肉」という言葉は時々聞くけれど、今回はじめて辞書を引いて意味を知ったよ。

恵…(a)と(b)、二つの意味があるけれど、共通するのは【①】という意味かな。

愛子…そうだね。(a)「遠まわしに、いじわるく弱点などを突くことば」の意味で使うのは、どんな時だろう。

恵…そうねえ。たとえば、しめきりをずいぶん過ぎてから宿題を出した時に、先生が【②】【③】なんて言う場合かな。

愛子…そうか。ストレートじゃないからかえって厳しい感じになるかもね。

恵…日常生活だとそのとおりね。では、本文における意味はどうかね。

愛子…本文では、(b)「予想や期待に反して意地悪をされたような結果になること。」の意味で使われているようだね。「年老いた馬」

である「ボクサー」が【③】【④】ことに対して、ふつうだったら豚^{ぶた}たちから感謝^{しやうき}されたり、称賛^{しょうさん}されたりすることが予想されるよね。にもかかわらず、「結果」は【④】【⑤】ということが何とも「皮肉」なめぐりあわせである、ということだろうね。

恵…そういえば、日常生活でも、同じような言い回しで、「皮肉な運命」という表現を聞いたことがあるよ。

愛子…難しい言葉だから、やっぱり気をつけて使っていきたいね。

(1) 「――」にあてはまる言葉を五字以内で答えなさい。

(2) 「――②――」に入れるのにもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア しめきりを守ることはとても大切なことです。遅^{おく}れないようにしましょう。

イ どうしてこんなに時間がかったのですか。その理由を説明してください。

ウ しめきりを守ることは先生との約束を守ることです。次回はがんばってね。

エ これだけ時間をかけたのだから、ずいぶんすばらしい作品なのでしょうね。

オ しめきりに遅れそうな場合には、前もって先生に相談しに来てくださいね。

(3) 本文の内容をふまえて、「――③――」には「年老いた馬」である「ボクサー」が「豚たち」にしたこと、「――④――」には「ボクサー」が「豚たち」からされたことをまとめなさい。「――③――」は二十字程度、「――④――」は三十字程度で書くこと。

問六

筆者は本文において、いくつかの例をふまえながら、忠誠心を持つことのあやうさを述べています。過剰な忠誠心を抱かないようにするために、私たちはどうすべきであると筆者は述べていますか。説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついている語は、文章のあとに語注があります。

五年二組で、オシャレ戦争が勃発したのは、二学期最初の日のことだった。

夏休みが終わり、二学期が始まると、クラスの空気は急にすっかりしてくる。一学期の間に、みんながそれぞれ手探りで作った仲のいいグループが、夏休みの間に絆を深め、パワーアップして帰ってくるからだ。かくいう詠子も、しいちゃんと夏休みの間、お互いの家を行き来したり、家族とのお出かけのお土産を交換したりして、共通の思い出を増やしていた。

そんな中、二学期の始業式の日にとこのグループよりも強い絆を見せつけてきたのは、片岡瑠璃羽ちゃんのところのグループだった。「今日のテーマは、マーメイド。真鈴は、貝がらのヘアピン、花蓮は海色グラデーションのワンピース、そして私は、波を意識したふわふわのウェービーヘア。うん、カンベキ！」

始業式が始まる前、教室の真ん中で大きな声で演説をしていたのは、瑠璃羽ちゃんだ。まつ毛がくるとカールしている瑠璃羽ちゃんは、低学年の時からお人形さんのようでとてもかわいらしく、その美貌はお父さんお母さんの間でも有名くらいだった。そんな瑠璃羽ちゃんが、きれいに波打った髪をツインテールにしていると、テレビの中のアイドルよりもずっと輝いて見える。

しかし、そのとなりにいる真鈴ちゃんと花蓮ちゃんも負けていない。

真鈴ちゃんは、つやつやの黒髪のショートカットで、凛とした雰囲気とすっとのびた長いまつ毛が大人っぽい、女性らしい女の子。花蓮ちゃんは、ポニーテールがよく似合うくると表情が変わる女の子で、足が長くモデルさんのように華やかだ。

そんな三人は、昔からそれぞれ有名だったが、なんの運命か今年、この五年二組に集結し、自然と仲よくなったことで、一学期から目立っていた。それが夏休みの間にパワーアップしたのだから、三人は今、五年二組で最強のグループと言って過言ではないだろう。

そして三人は、どうやら夏休みの間に新しいルールを作ってきたらしい。詠子は、瑠璃羽ちゃんの声からそれを悟った。

「私たち、これから、ファッションにテーマを持つことにしたの。毎日、放課後にテーマを決めて、次の日は、それぞれそのテーマに合った服を着てくるの」

聞き耳を立てずとも、瑠璃羽ちゃんをよく通る声は教室の隅々までしっかりと届いた。

詠子たちの学校には制服がないので、詠子たちは毎日私服だ。詠子は、毎朝着る服を考えることが嫌いではなかったけれど、似たよう

な服しか持っていないので、考えるまでもなくだいたいいつも同じような格好に仕上がる。毎日、テーマに合わせて服を選ばなければならないとなったら、さぞかし苦勞するだろう。というより、不可能だ。

と、詠子がそんなことをぼんやり考えている間に、どうやらしいちゃんも同じようなことを思ったらしい。けれど、しいちゃんは、詠子よりも頭の中を口に出すのが早かった。

「めんどくさそー」

しいちゃんも声に出すつもりはなかったのかもしれない。そんなつぶやくような声だった。しかし、クラス全員がなんとなく瑠璃羽ちゃんの声に聞き入っており、耳に意識を集中させていたので、^Aその声は思ったより多くの人に届いたようだ。

そして、瑠璃羽ちゃんもしっかり、その声をキャッチしていたらしい。瑠璃羽ちゃんは、よどみなく続けていた。^B演説を一瞬中断すると、何事もなかったかのような表情で演説を再開し、しかし、その中でしつかりしいちゃんに返事をした。

「お洒落を面倒くさいって言う人もいるかもしれない。馬鹿馬鹿しいって思う人も。でも、そういう人って視野がせまいっていうか、きちんと自分のこと考えられてないんじゃないかな。だって、大人になったら、お洒落しないと逆に失礼になるんだよ？ スッピンとか、その場に合っていない服とかさ。ボサボサの髪の人と自分に合った髪形をきれいにまとめている人がいたら、絶対、きれいな人の方が信用されるしね。だから、今からお洒落に気をつかうことって勉強と同じくらい大切なことだと思うの。つまり、お洒落は身だしなみの一部ってこと。それを面倒くさいって言っちゃうのは、なまけ者じゃないかな」

なるほど、と詠子は瑠璃羽ちゃんのスピーチに納得する。^Cいつの間にかクラスはしんと静まり返り、みんな、瑠璃羽ちゃんの観客になっていた。そこで演説が終わっていれば、拍手が起こっていたかもしれない。

しかし、瑠璃羽ちゃんは、まるでスポットライトを独り占めしようとするかのように、そのまま続けてしまった。

「もし、わざと毎日同じ男子みたいな服着て、お洒落に興味ありませんってアピールするのがかっこいいとか思っている人がいるとしたら、それってセンスないよね」

瑠璃羽ちゃんがそう言い終わるのと、しいちゃんががたつと音を立てて立ち上がったタイミングは、ちょうど同じだった。詠子は、はっとしてしいちゃんを見る。しいちゃんの顔が赤い。そして、それは怒りの色ではなく、恥の色であることが表情からわかった。

^Dと、クラスがしんとなったその時。

まるでねらったかのようなタイミングでチャイムが鳴って、外でサッカーをしていた男の子たちが **1** と教室に帰ってきた。それでその場合は、一度うやむやになったけれど、その中ですとんと腰を下ろしたらしいちゃんの周りの空気の静けさは、まるで残暑に放り込まれた氷の塊のようで、詠子はひやりとした。

その日の帰り道、しいちゃんはしばらく口を開かなかった。詠子は、その場にふさわしいお洒落な言葉を探したけれど、センスがないせいか出てこない。それで二人が **2** と無言で歩いていると、やがてしいちゃんが **3** と言った。

「……アタシ、別にわざとこういう格好してるわけじゃないんだよ」

詠子ははっと顔を上げる。しいちゃんの顔には、きまり悪そうな引きつった笑顔が貼りついていていた。

「アピールとかしてるわけじゃないんだよ」

いつも元気で明るく、誰に何を言われてもおおじせすに言い返す。そんなしいちゃんが、今回、何も言い返せなかった。そのめずらしさが、しいちゃんの心の痛みを物語っていた。

詠子は、うん、うんと何度もうなずく。しいちゃんが、二人の弟たちにお下がりあげるため、家族のためを思って、かわいらしい服をあえてさせていることは知っていた。そして、みんなの中にある、元気で活発な女の子のイメージを損なうてがっかりされたくないという思いを抱えていることも。

「あのスカートは？ お誕生日に買ってもらったスカート、明日、はいていったら？」

詠子は遠慮がちに切り出す。

しいちゃんが、言珠の力を借りてご両親にお願いした今年の誕生日プレゼント。そのスカートを、詠子は夏休みに一度だけ見せてもらった。しいちゃんの家に遊びに行った際、たんすの奥の袋の中に大切にしまわれていたそのスカートを、しいちゃんが見せてくれたのだ。ふんだんに重ねられた白いシフォン生地、色とりどりの小花の刺繍が入ったフレアスカート。その繊細なデザインは、しいちゃんの個性をつぶすことはなく、しいちゃんからあふれ出る活発さをきちんと受け止めていた。それどころか、しいちゃんの奥にある魅力をもさらに花開かせる力があつた。つまり、しいちゃんに似合っていたのだ。あのスカートを学校にはいていったら、瑠璃羽ちゃんも発言を撤回するかもしれない。

しかし、しいちゃんは首をふる。

「ううん、あれをばく時は特別な時って決めてるし、明日着たところで、あさってはまだ ^E いつもの格好にもどるしかないし。今日、あ
あ言われて、明日だけ無理するのも見せつけてるみたいで、カッコわるいじゃん」

確かに、と詠子は、自分の提案の不用意さを反省する。しいちゃんは、そんな詠子の様子を見て、逆に詠子を ^{きづか} 氣遣うように続けた。

「てか、うん、わかってるんだ。瑠璃羽が言ってたこと、正しいよね。お洒落って、無理することじゃなくて、毎日の努力の積みかさね
だし、必要なことだね。アタシがめんどくさいって言っちゃったのは、たぶん、負けおしみだったんだ。アタシには、できそうにない
からさ。あー、カッコわるい、アタシ」

しいちゃんはとても早口になっていて、まるで次々に言葉を流し出すことで、自分の中の嫌 ^{いや} なものも吐 ^は き出してしまおうとしているよ
うだった。詠子は、しいちゃんを内側から傷つけていくその言葉たちを止められる言葉を知らず、しいちゃんが口を閉じるのを待って、
ようやく言った。

「私、しいちゃんのその格好、好きだよ」

けれど、

「ありがと、詠子」

そう笑って返してくれたしいちゃんの笑顔はとても寂 ^{さび} しそうで、詠子は今の自分の言葉がまったくお洒落ではなかったことを思い知った。
そして、さらにこまったことに、事態は一日では収まらなかった。始業式の日 ^{かんめい} に瑠璃羽ちゃんの演説に感銘を受けたクラスの女の子た
ちが、次の日からオシャレを始めたのだ。休み時間の話題は、常に誰かの服装や髪形 ^{かみかたち} のことに集中した。

「ねえ、私の今日のテーマ、なんだと思う？」

「そのシユシユ、どこで買ったの？」

「編み込みのやり方、教えてー」

クラスの子たちは、瑠璃羽ちゃんたちと同じように、グループごとに毎日テーマを決めて、朝、登校するとグループ内でお互いの
ファッションについて話し合い、お昼休みになるとちがうグループと意見や情報を交換するようになった。

そんな中、瑠璃羽ちゃんはファッションリーダーとしての地位を確固たるものにしていて、ファッションの方向性のちがいで、女の
子たちが対立するようなことがあれば、瑠璃羽ちゃんの鶴 ^{つる} の一声が場を収めるということも多々あった。瑠璃羽ちゃんの真 ^ま 似 ^ね をし始める

女の子も増え、先生たちは急に華やいだ五年二組のクラスにとまどい、服装について注意をするかどうか迷っているようだった。

問題は、そんな日々が続くうちに、そのファッショングループから脱落する女の子が増えていったことだった。最初の一週間は、みんな、家にある洋服を総動員して、様々なファッションを作り出しては、お祭りのように騒いだ。しかし、そのうちにレパトリーはつき、ほとんどの子は、毎日がうふファッションをすることができなくなった。すると、それまで毎日楽しそうにオシャレの話をしていた女の子たちは、次第に休み時間に眉間にしわを寄せるようになったのだ。

「あの色の組み合わせ、おかしくない？」

「私も思った！ センスないよねー」

「あの子の今日の髪形、気合入り過ぎてて逆にイタイよね」

F それまで瑠璃羽ちゃんをお洒落の神様のようにあがめていた女の子たちは、いつまでたっても洋服のストックがつかない瑠璃羽ちゃんたち一派を痛烈に非難するようになった。

二期期のはじめから、このオシャレ合戦に参加していなかった詠子としいちゃんは、幸いなことに、この戦争に直接巻き込まれることはなかった。しかし、いつもならこのようなクラスのいざこざを中心になって収めるしいちゃんが、今回ばかりはただ黙ってこまったように眉を下げていることが、詠子には心苦しかった。

〔語注〕

※言珠……詠子がいちゃんに「言いたいことが言えるお守り」として渡したガラス玉。

詠子のおばあちゃんは、言ってはいけない言葉をしまう「言箱」と人に言葉を口にさせる勇気が宿った「言珠」を商う「言葉屋」を営んでいる。

〈久米絵美里『言葉屋 言箱と言珠のひみつ』（朝日学生新聞社）より〉

◆登場人物の名を答えの中に入れる場合、漢字をひらがなに直して書いて構いません。

問一 A その声 とありますが、これはどのことばを指していますか。本文中からぬき出して書きなさい。

問二 B 演説 とありますが、この前後でも「瑠璃羽ちゃん」がグループで話すことが「演説」と表現されています。なぜでしょうか。答えとしてふさわしくないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 声が大きくてよく通るから。

イ 小学生にはむずかしい話だから。

ウ つかえたりせず筋道立てて話しているから。

エ みんなにも聞こえるように話しているから。

オ 瑠璃羽ちゃんは周囲から注目される存在だから。

問三 C クラスはしんと静まり返り D クラスがしんとなった とありますが、クラスが「しんと」したのはなぜでしょうか。CとDのちがいがわかるように、それぞれの理由を答えなさい。

問四 本文中の 1 ～ 3 にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～クの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

ア こっそり イ サラリ ウ ぴしゃり エ ポツリ

オ サクサク カ とほとほと キ ドヤドヤ ク ふらふら

問五 **E** | いつもの格好とありますが、「しいちゃん」は自分のいつもの格好についてどのような思いを持っていたのでしょうか。わかりやすく説明しなさい。

問六 F それまで……あがめていた女の子たちは、……痛烈に非難するようになった。とありますが、このように急に態度を変えることを表す「《》を返す」という慣用句があります。「《》にあてはまる、体の一部を表す言葉を、ひらがなで書きなさい。

問七 本文から読み取れる「詠子」の人柄の説明としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 素直で人の気持ちをよく考えて行動するが、いまひとつ自分に自信がない。

イ 瑠璃羽ちゃんにはあこがれつつも、自分は今のままでよいと満足している。

ウ つねに冷静で、周囲の様子をしつかりと観察して公平な態度をとっている。

エ 人づきあいが苦手で、しいちゃん以外の女の子たちには心を開いていない。

オ 根は楽天的だが、その場の空気を読んで、あれこれと心配しすぎてしまう。

国語の問題はこれで終わりです。

